

## 小澤英実

小澤英実は文筆家。ベテラン枠として初年度より参加。途中で休みに入るも、研究員の活動を見守りつづける。

つくりかた研究所の活動期間に二か月ほど入院していました。基本的に病室から一歩も出られない、牢獄みたいな生活でした。

そのときつくづく思ったのは、アートやパフォーマンスっていうのは、外に出られない人にはまったく無縁のものだなということです。つくる人も観る人も貧乏だと思うけど、お金と時間があつて、自由があつて、そのうえ健康じゃないといけない。この最低条件をクリアしないと参加できないことで、それは「最低」っていうてもかなりハードル高いよな。外に出られない人にとっては、アートに触れるというのは映画か小説読むかぐらいで、演劇やパフォーマンスはむしろ社会からの疎外感が募るものです。プロジェクトがそういう人たちを排除して完結しているというのは、やっぱりもったいないし、なにかが欠落していると思います。

だから、つくりかた研究所がやろうとしていることを、どうやってその人たちに届けら

れるかなって考えるようになりました。まだ答えは出ませんが、これからも考えるべきテーマだと思います。